

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	6	事業名	地域間交流事業 (大事業名) 地域間交流事業		担当課		たつせがある課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		2-1-9-1 地域間交流事業		
					決算書ページ		66 ~ 67 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	5	いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪	事業開始の背景	南木曽町は木曽川の水源地が縁で平成18年に交流宣言書の調印を行い、宝塚市は介助犬訓練施設「シンシアの丘」が縁で平成24年に覚書「きずなづくりの誓い」を締結し、交流を開始した。			
		政策	2	観光交流まちづくりの推進					
		施策	(1)	観光交流スタイルの確立		市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可	
	その他	開始年度		平成18年度					
		終了予定年度		☐ 年度 ☒ 未定					
		根拠法令等		特になし					
		関連計画		第2次長久手市観光交流基本計画					
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）				アウトカム（詳細はⅢへ）			
		①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【対象】 ☒ 市民 ☒ 事業者 ☒ 職員 ☐ その他 対象の数： 約60,000 【事業内容】 他自治体と地域間を超えた連携を行い、特に長野県南木曽町、兵庫県宝塚市との観光・歴史・文化的資源を生かした市民間及び自治体間の交流を推進します。		【アクションプラン指標】 自治体間相互訪問及び交流件数【累計】 【その他の指標】		・相互自治体間の連携回数が増加する ⇒相互の都市の魅力に触れる 機会の創出 (成果指標名) 交流事業件数 長久手市と交流都市が連携して行う事業		大事業共通 ・水源地との交流を通じて水や自然、そして互いの文化、歴史、観光、産業への理解を深め、その大切さを実感できるようにする。	

活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度		
活動指標	1	【アクションプラン事業】 自治体間相互訪問及び交流件数	件	基準値	3	見込	5	6	6	7	7	
				目標値	5	実績	5					
	2			基準値		見込						
				目標値		実績						
	3			基準値		見込						
				目標値		実績						
	4			基準値		見込						
				目標値		実績						
	エピソード											
	事業開始からの経緯											
	友好都市南木曽町とは平成18年から交流事業を開始し、相互市町の魅力をPRするために市民まつりへの参加等を行っている。 また、たつせがある課とは別に担当課が、友好都市との連携事業を個別に実施している。											
	R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
令和5年度は、過年度と同様に（一社）長久手市観光交流協会が主催する長久手楓まつりへ出店してもらい、南木曽町の特産品（木工、五平餅等）のワークショップや販売等を通じて同町をPRすることができた。 また、南木曽町職員向けに長久手市の取組や特徴等についての研修会を行ったり、南木曽町で開催された「文化文政風俗絵巻之行列」へ市長や市職員が参加した。												

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		交流事業件数 長久手市と交流都市が連携して行う事業	件	H30 年度		R4 年度		【現状】 R5 年度		R6 年度		R7 年度		
				3		5		5		6		7		
		成果達成状況				指標目標値の根拠								
		B	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている				両市町と本市との交流の実態を把握するため、行事への参加など、自治体間で行った相互訪問や交流事業及び情報交換した件数を指標とする。							
		評価の理由、分析												
	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、社会情勢を考慮しながら事業手法を変化させ一定の成果を上げてきてる。													
	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由											
	A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止	コロナ禍の影響で交流事業の実施や職員交流がほとんど行われなかったため、南木曽町と長久手市が友好都市であることを認識している職員（特に若手職員）が少なくなってしまった印象がある。これを解消するために、南木曽町役場職員による本市役所若手職員向けの勉強会や相互市町を訪問する現地勉強会などを実施して、南木曽町と連携した事業をより行えるよう取り組む。 これにより、例えば各課で事業を実施する際に、南木曽産の製品を使用するなどの意識付けを行いたい。											
	改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)													
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												
2		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												
3		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3年間の推移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
			C. 縮小 D. 廃止			49	49	15	49	15	
		理由			特定財源	合計額					
		南木曾町・宝塚市との関係性を保ち続けるのであれば、友好都市としての連携（楓まつりへの出店、文化文政風俗絵巻之行列への参加）は続けながら、各課で実施している事業の見直しを行うことで経費節減を図る。				(内 国費)					
						(内 県費)					
						(内 諸収入)					
						(内 その他)					
		積算額			一般財源		49	49	15	49	15
		令和6年度と同水準			R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（R5年度予算額）> 普通旅費 18千円（18千円） 食糧費 8千円（8千円） 道路通行料 23千円（23千円）						